

目次

楽しさを感じる学習 情報システム創成学科 2年 唐 海鑫
のびのび楽習塾で感じたこと 経済学科 3年 石川 千尋
学習と楽習 経済学科 3年 平木 松治
「のびのび」での活動を通して学んだこと 情報システム創成学科 3年 平川 将也
のびのび楽習塾で学んだこと 英語英文学科 3年 佐藤 綾香
けじめのある学習を 人間科学科 3年 中島 佳穂里
実りある学習のために 経済学科 3年 佐藤 雄大
のびのび楽学習での体験 法律学科 3年 崎井 優太
外国につながる子どもたちの現状を知って 英語英文学科 4年 伊奈 沙織
楽しもうとする気持ち 英語英文学科 4年 伊藤 伎恵
「のびのび」で必要な支援とは 情報システム創成学科 4年 西尾 真由子
繋げること 電気情報フロンティア学科 4年 勝俣 恵梨奈
一人一人の力を伸ばす学習を目指して 外国語学研究所 1年 佐藤 陽子
これから学んでいきたいこと 外国語学研究所 2年 鈴木 恵介
日々努力していること 中島 慎介



のびのび楽習塾

楽しさを感じる学習

情報システム創成学科 2年 唐 海鑫

昨年の3月からののびのび楽習塾でのサポートを始めました。ここでは中学1年のMさんについて書きたいと思います。

Mさんは両親が中国人ですが、日本で生まれた子どもです。自宅でしか中国語を使えないから、日常用語以外はほぼできません。Mさんのお母さんはMさんが中国の文化を少しずつでも理解できるようにすることを望んでいますので、去年の年末から、Mさんの母語保障のため、中国の歴史の勉強を始めました。

最初、私は中国の7年生(中学1年生)用の教科書を利用して、教えたいと思いました。2回ぐらいいやってみると、難しいことがわかりました。原因として、Mさんは中国語の読み書きの経験がほとんどなく、成語と古詩も知らないからです。普通の中国人の子どもは小学校1年から「拼音」(日本語のふりがなと似ています)を勉強するから、教科書の中で、知らない文字でも、全部読めるようになります。

また、中国語はすべて漢字なので、字や単語の意味がわからないと文章はしっかり理解できないのです。例えば、歴史教材の第一章は「炎帝,黄帝,蚩尤」という中華民族の「三大祖先」についてのことですが、Mさんは「炎黄子孫」という成語も聞いたことがなく、その時代の「神話」(物語)も全然知らなかったです。でも、秦漢前の歴史はほぼ『神話』のことです。そして、事件の時間、位置、人物を覚えることは面白くないから、30分以上たつと、Mさんはあきてしまいました。

そこで、子どもが好きな「神話」から勉強すればいいのではないかと、私は思いました。中国の学生達は必ず読む本は四大名著ですが、この中で『红楼梦』、『水滸伝』、『三国演义』はMさんにとって難しいと判断しました。ちょうど『西遊記』は私が小学生の時大好きな「神話」でした。西遊記

の読者の年齢層はとても広いから、Mさんも興味があるかもしれないと思い、楽しく中国文化を理解するため、中国の『連環画』(還元性が高く小さく連続絵)も準備しました。

Mさんの中国語は読み書きができないことだけなので、もし文字の読み方がわかれば、文章の内容が理解できるようになります。そこで単語と発音を対応させるため、私は一回中国語で読んであげて、その後Mさんが声を出して読みました。一回やってみると、Mさんは西遊記のことが大変面白いと言いました。家でも宿題で読みたいと言うほど関心を持ってくれたようです。後2、3回で西遊記の学習を終わりたいと思いますが、また面白い教材を考えていきたいと思います。

子どもに中国語の楽しさを知ってほしいと思います。これから子どもと楽しみながら「のびのび」の勉強を続けたいです。

のびのび楽習塾で感じたこと

経済学科 3年 石川 千尋

私がのびのび楽習塾に参加して多くの月日が経過しました。そこで今回は、ボランティアレポートを前回書いた際に見つかった問題点が、時間の経過によって、どの程度改善したのかを書き記していきたいと思います。前回のレポートでは、のびのび楽習塾に参加することで、私の足りないところに気付くことができたと言いました。その中でも、生徒にたいして相槌を打つときに感情を込めることや、話すときに生徒の意見をしっかりと聞くことが、とくに課題であると感じました。

私はもともと会話をする際に感情をこめて受け答えをすることが苦手で、実際に思っていることを言葉に乗せて話すことがあまりうまくできません。日常会話では、言葉に感情をこめなくてもなんとなくかなりますが、生徒と対面で学習を行っているときは、それではうまく教えることができませんでした。

こうした現状をふまえたうえで、のびのび楽習塾のなかで子どもたちと接していく過程で、試行錯誤しながらいくつかの改善策を見つけることができました。改善策の一例としては、声のトーンによって感情に変化をつけていくことが挙げられま

す。これにより、生徒の理解度やその時の精神状況によって、感情を場面場面によって変化させることが可能になり、私の課題であった感情をこめられないことが、一変して一つの武器に再編成することができました。

また、最近では生徒に教えるうえで心がけていることがあります。心がけていることの一つは、学校のように教えることを重視する学習を行うというよりも、生徒に興味をもってもらう形態をとっていくことです。例えば世界史であれば、身近なものに関連させて学習を進めていったり、地図で国を確認しながら進めていったりすることで生徒に興味をもたせます。なぜ、興味をもってもらうことに重点をおくのかというと、のびのび楽習塾の「先生」は私たち学生だからです。学生よりも学校の「先生」の方が、教えるのがうまいのは当たり前です。そこで、のびのび楽習塾では、学校の学習の補助を行いながらも、興味をもって勉強に向かってくれるようにすることが一番大切であると考え、心がけることにしました。

このように、私はのびのび楽習塾に参加することで、たくさんのことを得ることができました。これからは生徒やスタッフとたくさんの思い出を作りながら、先生としてだけではなく、人としても成長していきたいと思います。



学習と楽習

経済学科 3年 平木 松治

のびのび楽習塾は、外国につながる子どもたちへの学習支援を行っています。外国語を母語とする子どもたちへの日本語を中心とした学習支援です。時には、学校から出された宿題などの手伝いなどしています。さらに、クリスマス会など定期的にレクリエーションを行い、子どもたちとのコミュニケーションをとる機会を多く設けています。その中で、子どもたちは学校や家での生活で出会う人たちとは違った関係の大学生と話せる場になっていると感じています。学習やレクリエーションを通して、大学生と多く話すことで、本来の目的である日本語支援につながると思います。また、子どもたちにとって普段生活している環境とは違う所で、いつもは話せないようなことも、のびのび楽習塾では話せたりできるようになるのではないかと思います。普段学校ではあまりしゃべらない子どもが、のびのび楽習塾ではよくしゃべっているというような話を聞くことがあります。これは日本語によって気持ちを表現する練習にもなっているのだと思います。

特に日本語の学習をする場合には気を遣っています。例えば、漢字の学習では漢字の形や書き順のみを覚えるのではなく、漢字の成り立ちや、読み、意味などを理解しなければなりません。したがって、部首や漢字の音などのわずかな情報から国語辞典や漢字辞典を使い検索して、そこに書かれている意味や似ている漢字の違いを理解するなど、できるだけわかりやすいように、正しい日本語を教えらるるよう努力しています。

また、私はのびのび楽習塾が子どもたちにとって気軽に來ることのできるところになればいいなと思っています。子どもたちが気軽に來て、大学生や他の子どもたちと話をし、一緒に勉強して帰る。何気ないことが子どもたちにとっては学びにつながっています。子どもたちにより多くの学びの機会を持ってもらうために、のびのび楽習塾だったら土曜日の朝早くに起きてでも行こうかなと思ってもらえるようにしたいと思います。

「のびのび」での活動を通して学んだこと 情報システム創成学科 3年 平川将也

のびのび楽習塾でのボランティア活動を始めて半年が経ちました。夏休みから2ヶ月間ほど、私はのびのびに参加することができなかったのですが、久しぶりに子どもたちと会って話をすると、生徒が「先生久しぶり！何してたの？」と笑顔で言ってくれてとても嬉しく感じました。これは活動に参加をして良かったなと思える瞬間の一つです。

今回は2つほど活動をしてきて感じたことを書きたいなと思います。1つ目は学校の授業を欠席した場合の支援の必要性です。のびのびの生徒の中に風邪で学校を1週間休むことになった生徒がいました。学校を1週間休むと数学や英語などのコマ数の多い授業ではかなり進んでしまい、戻ったときにはついていけなくなってしまう恐れがあります。のびのびに來ているような、外国にルーツがある子どもたちには、特に手厚くしてあげなければいけないのではないかと感じました。今回のケースは稀であるかもしれませんが、のびのびがあることによって、少しでも授業に追いつきやすくなるのではないかと思います。

もう1つは外国へつながる子どもたちをとりまく現状を把握することの大切さです。後期からののびのびでは、学習支援以外の取り組みとして、研修を行っています。内容としては外国籍の子どものことが書かれている文献をお互いに意見交換をしながら読んで行くというものです。外国にルーツがある子どもはやはり日本語がネックになってしまい、国語だけでなく他の教科でも成績が振わない子が多く、本当なら勉強ができる子どもでも高校入試に挑戦できず、通信制などに行かざるおえない子が多いということを知りました。日本に住んでいるからという理由でそのようなことになってしまっているのは、絶対にあってはならないことだと思います。学校で国際教室が開けないのであれば、のびのびのような場所というのはとても重要になってきます。また少子高齢化の進む日本において外国からの移民の受け入れが必要になるという話もありました。

上記の2つのような状況から外国につながりを

持つ子に対しての支援の強化が必要であると考えられます。そのようなことを学び、のびのび楽習塾のような場所はとても重要な場所なんだということを改めて感じました。これからこののびのび楽習塾でのボランティア活動を通じて様々なことを学んでいきたいと思います。

のびのび楽習塾で学んだこと

英語英文学科 3年 佐藤 綾香

今年度の10月から、のびのび楽習塾で活動しています。これまでにボランティア経験も、人に教えるという経験もほとんどなく、日々あれこれと模索しながら参加させていただいています。まだ数回しか活動できていませんが、その中で学んだことや、これから改善すべきことを二点あげたいと思います。

まず一点目は、生徒がつまずいたときの対応の仕方です。中学3年生の生徒と一緒に国語の問題集を解いていたとき、その生徒が何度か答えを出せずに行き詰まることができました。私はそのとき上手く生徒を導くことができず、結局ほとんど答えを教えたような形になってしまいました。生徒自身も分かったのか分かっていないのかははっきりしない状態で、ただ私に言われた通りに書いている様子でした。これでは生徒の力にならず、さらに生徒の学習の喜びや、気付きを奪ってしまうこととなります。学習は生徒が自ら考え、気付き、納得して初めて力になるのだと思います。そういった生徒の純粋な喜びや気付きを奪うことがないように、ヒントを出しながら、生徒から上手く答えを引き出すことが大切だということを学びました。また、どうしてこういう答えになるのかしっかり理由を説明し、生徒自身が本当に理解しているかを確認しながら丁寧な授業を展開させていきたいと思っています。今後は、生徒に「できた！分かった！」という感覚を持たせながら、学習をサポートできるように努力していきたいと思っています。

二点目は、授業準備の大切さです。このことは授業で模擬授業を行うときにも何度も感じたことですが、のびのび楽習塾で実際に生徒を目の前にして教えるという経験を通してさらに強く感じました。準備をしっかりすることで、あらかじめどのよう

な点で生徒がつまずきやすいのか予想でき、そうすることによって対応の仕方も変わってくると思います。授業の準備を丁寧に行うことで、一点目にあげたようなことはある程度は回避でき、生徒にとってより良い学びの場になるのではないかと考えました。

最後に、今後、このような反省点を改善していくことはもちろんのこと、さらに生徒たちとの信頼関係を築いていくことを目標にしたいと思います。そのために、まずは自分から話しかけるなどして、学習の場以外でも積極的にコミュニケーションをとり、生徒一人一人をよく理解していきたいです。のびのび楽習塾が生徒たちにとって安心して学ぶことのできる場所であるよう、私自身も一層努力していきたいと思っています。

はじめのある学習を

人間科学科 3年 中島佳穂里

私は今年度の10月より週1回、毎週土曜日に大学で行われているのびのび楽習塾での活動を始めた。のびのび学習塾では、大学周辺の小・中学校に通う外国籍の生徒や日本語以外の言語を母国語とする生徒への学習サポート、また、その保護者の方に対し様々なサポートを行っている。生徒数は全員で8名と、やや少ないが、1人の生徒につき1～2人の学生、またはスタッフが付き50分の授業を2コマ分行う。

初回の授業の時、見知らぬ顔の私に1人の女子中学生Mさんが近づいてきてくれた。私の様子を伺いながら「新しい人？」と聞いてきたので、「そうだよ！」と少し緊張しながらも、自己紹介をした。私からも質問をしながら会話をしていくと、Mさんは共通の趣味であるスポーツやいくつかの話題に興味を示してくれて、その日のうちにすっかり私のことを覚え、次の週からも積極的に近づいてきてくれるようになった。時には、他のスタッフには言えない悩みを話してくれる時もある。Mさんが仲良くしてくれたおかげで他の生徒も私に興味を持ち、次々に話しかけてくれるようになった。

しかし、皆と仲良く話すことができるようになって嬉しい反面、親しくなりすぎて、授業開始時刻になっても席につかないで、「一緒にやろう？ね？お願い？」というようにちよつとしたわがままを

突き通そうとしてくるなど、少し困ってしまう出来事も起こるようになった。“のびのび楽習塾”は、単なる遊びの場ではなく、あくまでも学習の場の一つであるので、自由時間には仲良く様々な話をし、授業時間になったら、私自身も生徒たちに「あ、もう始まったのだな」と感じさせられるような態度(言葉遣いや、表情など)をみせて、「はじめ」のある有効な時間の使い方を心がけるようになった。

のびのび楽習塾で活動するようになってから、日本語以外の言語を母国語としながら日本で暮らす中学生と初めて関わるようになった。生徒たちは2カ国語以上の言語を身につけており、世界にも非常に興味を持っていて、様々なことに対して非常に高い学習意欲を持っている。しかし、現在の日本ではそうした非常に優秀な生徒たちに対するサポート体制があまり整っておらず、彼らを悩ませているということも学んだ。のびのび楽習塾に来てくれる生徒1人1人ときちんと向き合い、生徒たちの悩みを少しでもなくせるようこれからも活動していきたい。

実りある学習のために

経済学科 3年 佐藤 雄大

のびのび楽習塾でのボランティア活動を始めておよそ半年が経過しました。活動回数を重ねる度に、自らの新たな課題を発見し、日々改善しながらの活動でした。

のびのび楽習塾では、専門教科に関する勉強のみならず、生徒が持参した勉強をすることがあります。とりわけ印象に残っていることは、中学一年生の生徒が持参した理科の夏休みの宿題です。本来、専攻していない理科を担当することは多くありません。しかし、「イチョウ」について調べる課題を辞書・インターネットを駆使して知識を得、得た知識をフィールドワークでの体験を通じて実感させることができました。教科書だけではなく、さまざまな教材を用いて学習することで理解が深まっている印象を受けました。私はこの経験から、一方的に教えるだけではなく、理解を深めるための支援を行うことにより、生徒の知識を広げることにつながると再確認しまし

た。そこで、生徒が一度間違えた点についても、再度説明するだけではなく、時間をかけて生徒が自ら気づき理解することができるように意識して支援を行っています。

今後も生徒のためになる支援を意識し、学習状況に合わせた指導計画を立てることが必要であると同時に、指導計画を適宜見直す柔軟性が必要であると感じています。個別指導の利点を存分に生かし、生徒に知識をつけるための充実した時間となるよう一層努力しようと思います。

のびのび楽習塾での体験

法律学科 3年 崎井 雄大

私は、毎週土曜日ののびのび楽習塾というボランティアで、外国につながる子どもたちに勉強を教える活動をしている。

このボランティア活動を始めて早半年になるが、初めの1ヶ月ほどは私の内向的な性格のせいもあって、あまり積極的にコミュニケーションが行えずに、子どもたちとの信頼関係が築けずにいた。2ヶ月目に入ってから、他のボランティアの学生の真似をしてみようと考え、子どもたちとコミュニケーションをとる時の内容や視点を観察するようにした。すると、視線を子どもたちと同じ高さにして、会話の内容が遊びや娯楽に関することであることに気付いた。それまで私はどちらかといえば生徒よりも高い視線から話しかけていたり、会話の内容も勉強についてや、ニュースについてなど、どちらかといえば中学生、高校生にとって興味や関心の薄いものであった。このことを踏まえ、2ヶ月目は生徒と同じ高さの視線で、授業中もできるだけ笑顔で、会話の内容も考えて行うようになってくると徐々にであったが、子どもたちとコミュニケーションがとれるようになっていた。やはり、教師になるためには良い授業を作るために工夫するなどといった授業のためのスキルも大事であるが、それ以上に子どもたちとの信頼関係を築くために必要なコミュニケーションスキル、そしてその為の柔軟な思考が大切であると再確認した。

のびのび楽習塾を始めて半年がたったいま、コミュニケーションについて、それなりの自信と経験がついてきた。しかし、まだ不十分な面が多く感じられ、子どもたちとのコミュニケーションもうまいいかないこともあるので、現状に満足せずに経験を積んでいきたいと思う。

外国につながる子どもたちの 現状を知って

英語英文学科 4年 伊奈 沙織

のびのび楽習塾での学校ボランティアを始めて1年が経ちました。学習やレクリエーションを通じて、外国につながる子どもたちと徐々に距離が縮まってきたように思います。

後期は、子どもたちとの学習だけでなく、外国につながる子どもたちの現状について知る研修がありました。私の地元にもそういった子どもが多いことや半年間ののびのび楽習塾での活動で、彼らについてはある程度分かっていたつもりでしたが、資料を読んだり他の学生と情報を交換したりして、知らなかったことがたくさんあったと気づきました。特に衝撃を受けたことは、彼らの高校進学条件が厳しいということです。進学できたとしても高校側のサポートが薄く、他の生徒と同じ生活や授業についていけなくなり、退学してしまうことが多く、就職でも不利になるということがあります。現在、のびのび楽習塾にも中学3年生の生徒がいます。彼女には、来年度からも快適な高校生活が送れるようなのびのびのようなサポートが必要だと思いますが、中学2年生以下の子どもたちにも、希望する進路が叶うようにより手厚いサポートを徹底していく必要があると感じます。私たちがすぐに何か特別なことをすることは難しいかもしれません。しかし、春から教壇に立てるチャンスがあったら、他の先生方やボランティアの方と情報交換を欠かさずし、英語の教師という点から、言語、文化、基本的な生活習慣などについて理解し、国籍に関わらず子どもたち全員にも理解を深めてほしいと思います。

日本は外国人から大変人気がある国で、これからの移住してくる人は増えていくでしょう。のびのびで感じたことや学んだことを大切に、一人でも

多くの外国につながる子どもたちが安心して生活できるよう関係を築き、そのような学校づくりに努めたいです。

楽しもうとする気持ち

英語英文学科 4年 伊藤 伎恵

のびのび楽習塾での活動に参加して1年半が過ぎました。最近の活動では、グループとしての動きが活発になったり、学生の知識増加を目的とした研修の時間を設けることも増えてきています。活動の中で、私は中国につながりを持つ中学2年生の男の子の英語を継続的に教えており、その中で感じたのは、子どもとコミュニケーションを取ることの難しさです。

よく担当する中国籍の男の子R君は、大人しい性格で自分から言葉を発することが少ないです。そのような生徒に対し、私はコミュニケーションの取り方がわからなくなった時がありました。なぜなら、相手の反応ばかりを気にして、会話を楽しむ気持ちを忘れていたからです。その日の授業で扱うテーマに関する話題を開始前に話してみても、実際に授業をしても、おやつ時間に近況に関する会話をしても、盛り上がったことは少なかったです。一方的な授業展開になり、本当にその子のためになっていることをしているのかと、とても心配になりました。しかし、同じように学校ボランティアを行っている人の話を聞いたことで、私自身がその生徒との会話を楽しむ気持ちを忘れていたことに気づくことができました。自分の技術面にばかり集中して、予想通りの反応が返ってこないと不安に感じ、それが表情にも出ていました。不安や迷いの表情は、きっと子どもにも、「この先生大丈夫かな？」という不安感を与えていたに違いないと思いました。それからは、生徒とコミュニケーションを取る時には、たとえどのような反応だったとしても、楽しむことを忘れずに接するようにしました。まだはっきりした成果は出ていませんが、少しずつ会話のキャッチボールができたと感じる瞬間も増えてきました。

今後も、相手に興味を持つことを忘れず、会話のキャッチボールを楽しむことで、生徒の気持ちに寄り添う授業ができるようにしたいと思います。

そして、彼にとってもものびのびが楽しいと思える場になるよう、今後もコミュニケーションを積極的に取っていきたいと思います。

「のびのび」で必要な支援とは 情報システム創成学科 4年 西尾真由子

後期ののびのび楽習塾の活動で、特にのびのび全体の問題と私が担当している生徒の問題の2つの課題がありました。

まず、のびのびの活動のことです。私は、のびのび楽習塾の活動に2年の終わりごろから参加しています。大学生と小・中学生、1対1で勉強するのびのび楽習塾は、私が始めたころは大学生の人数が足りず、毎回どうにか人数をそろえて行っていました。しかし、今では大学生20人以上になり、ゆとりをもって教えることのできる塾になりました。その反面、生徒の人数が減っていき、大学生と小・中学生のバランスが悪くなっています。より多くの生徒に塾に来てもらえるように、外国につながる子どもたちの支援の現状を勉強し、今、生徒たちはどのような支援を必要としているかについて大学生で話し合いをしています。すぐに解決できるようなことではありませんが、神奈川区での現状を知り、私たちにできる支援をしていきたいです。

2つ目は、私が担当することの多い中学3年生の生徒のことです。その生徒は、私がのびのびを始めたころからよく見えています。今年度は、その生徒がJIN-KANA学習塾にも通うことになり、週3回担当する日もありました。後期は、支援方法について悩んでいます。のびのびでは、彼女が好きな数学を教えていました。計算問題は得意でしたが、文章問題になると途端に嫌な顔をすることが多かったです。様子をよく見てみると、文章が読めなく、問題の意味がわかっていないことに気づきました。彼女は小学6年生の頃に来日していて、日常会話や読み書きは何も不自由なしに行っていたので、最初はこのことに気が付きませんでした。話し言葉はできていても、授業で扱うような何気ない言葉、例えば「性質」「特徴」などが特に難しいようです。そこで、音読をするようにしたのですが、自分が読めないことが恥ずかしいようで、嫌がられてしまいました。私と交互に読むことで、やっと音読をするようになりました。この音読の件も含めて、こ

の生徒はわからないところを見せたがらないので、教えていて本当に理解しているのか不安になることがあります。そのときは、生徒自身に説明してもらい、理解しているか確認するようにしました。また、彼女が傷つかないように、できるだけ×印を付けないように気を付けています。

最近、この生徒が別室登校をしていることを話してくれました。教室で授業を受けていないので、のびのび・JIN-KANAそれぞれで授業の内容をすることになりました。また、入試についても今までの計画が白紙になったので、生徒が目標を見失わないように、一緒に今後について話し、考えていこうと思います。私たちにできる支援は限りがありますが、一緒にボランティアをしている学生と協力しながら、生徒のためになる支援をしていきたいです。



繋げること

電子情報フロンティア科 4年 勝俣恵梨奈

のびのび楽習塾では、神奈川区の小・中学校に通う外国につながる子どもたちと勉強をしています。私は、数学と理科を主に担当しています。私は、2年生の頃からのびのび楽習塾に携わっています。今までの活動の中で、外国につながる子どもたちの現状について研修や港中学校の国際教室のボランティアへ参加してきました。その活動を通して、自分がボランティアで関わる子どもたちの状況を知りました。

昨年度の活動を振り返ると上記のような研修の機会が少なくなり、研修に参加したことのない学生のほうが多くなりました。しかし、ミーティングの中でこのままでは良くないという話が出て、『外国につながる子どもたちの現状についての研修を行い、勉強をする』ことを後期の目標としました。自分のボランティアの経験を後輩に伝えと同時に新しい情報を把握することで、良いボランティアにしたいと思い、少ない時間ですが研修を始めました。研修で学んだことは、全国的に外国につながる子どもたちは減少していますが、国際教室のある学校があまり多くなく、外国につながる子どもたちのサポート体制が足りていないという現状があるということです。このような研修を重ねて自分と関わる子どもたちのことを知り、のびのび楽習塾での活動につながるように勉強を教えるだけでなく、自分も勉強していきたいと思います。



一人一人の力を伸ばす学習を目指して

外国語学研究科 佐藤 陽子

「のびのび楽習塾」に現在通っている子どもたちは8人で、今年度は小学生が1名、中学生が7名です。後期から始めたJIN-KANA学習塾での活動から、定期試験や入試だけでなく、日頃課される宿題や提出物も重要であり、評価の一部となって高校入試に影響することを改めて意識するようになりました。そのことは、のびのびで子どもと学習する際にも常に意識しています。今期に入り、新たに中学2年生と小学1年生の2名が通い始め、活動の雰囲気もさらに変化したように感じます。

担当することが多いDさんは、それまで主として担当してくださっていた先生が春にお辞めになって以降、不安定な様子だった時もありましたが、最近は何の学生が担当でも毎回楽しそうに取り組んでいる姿が印象的です。彼女が苦手の教科は国語で、小学校の時から教科書の音読を中心に、日本語のリズムや漢字を勉強してきました。中学校でレベルが上がって以降はなかなか授業についていけない様子で、先日担当した時も「今授業で読んでいるところ」と言っていた文章のタイトルの漢字が読めない程でした。そこで国語辞書を準備して、文章の最初から音読を行い、読めなかった漢字や分からない言葉が出た時に必ず辞書を引いて理解する、という学習を行いました。普通の学校の授業では、彼女についてはいけずに不完全燃焼で終わってしまうため、のびのびでは彼女のペースで学習を行い、「わかった！」が一つでも多く増えるようにしたかったのです。もともと一生懸命に学習に取り組むタイプですから、分からないことがあればすぐに質問してくれます。辞書を引いた際にも説明文を音読することで、彼女の日本語力の助けになります。のびのびが「勉強は楽しい」と感じられる場所となるように、他の学生とも協力して丁寧に学習をしていきたいです。

今期は、もう一人担当することが多いDさんの学習から、新たに学びを得ることができました。彼女は両親ともに中国出身ですが、本人は日本生まれで、中国語よりも日本語が得意です。学習面での支障はなく、以前は勉強というよりも「お兄さんお姉さんとおしゃべりがしたい」というような状況でし

た。そこで、先生方の提案により、現在は中国語や中国の地理や歴史を学習しています。彼女が「中国人」として生きていくことを両親が望んでおり、それを実現するために必要なことは、母語や自文化を保障することだという考えに至ったからです。これまでのびのびの学習支援は「日本語学習」がほとんどでした。しかし、外国人が日本において「外国人として」アイデンティティを保ちながら生きるためには、何が必要なのか、マジョリティである日本人はどのように彼らと関わるべきなのか、今回Dさんが考えるきっかけを与えてくれました。現在は担当することはめったにありませんが、専攻していた中国語を生かしながら、彼女のためにできることを考えていこうと思います。

これから学んでいきたいこと

外国語学研究科 鈴木 恵介

私は、のびのび楽習塾での活動を通し、「多文化共生」や外国につながる子どもたちの状況について、より学んでいきたいと思いました。のびのび楽習塾に参加するようになってもうすぐ二年になりますが、私は目の前のこと、つまり、どのように勉強を教えたらよいのかということについてばかり考えていました。もちろん、それはとても重要なことですが、ここに来ている外国につながる子どもたちが置かれている状況についてはあまり考えることがありませんでした。

私が、そのようなことに目を向けるようになったのは、以前は、子どもたちの保護者の方に日本語を教えることが多かったのですが、最近では、子どもの担当になることが多くなったからです。外国につながる子どもたちに勉強を教えることが多くなると、彼ら、彼女らがどのようなことを必要としているのか、また、外国につながる子どもたちが、現在日本にどれくらいいるのか、といったことを考えることが多くなっていきました。

このように、私はのびのび楽習塾での活動を通して、それらのことを学ぶ必要があると思うようになり、また、学びたいと思うようになりました。私は今年で神奈川大学を卒業しますが、現在事情によりのびのび楽習塾に参加できていませ

ん。再び参加できるのは一月になってからなので、あまり時間がないのが現状ですが、残された時間の中で、よく学んでいきたいと思っています。

日々努力していること

中島 慎介

のびのび楽習塾で活動を始めてから1年半が経過しました。私は今年度の後期に「一人ひとりの子どもたちの様子を見て、接し方と学習支援の方法について理解し実践する」という目標を立てました。目標到達に向けて、しっかりと子どもたちの状況を把握し、子どもたちや保護者から信頼を得よう努めています。今まで私は子どもたちに社会や数学などを教えたり、子どもたちと会話したりしてきました。その結果、私は子どもたちからよく声をかけられるようになり、お互いに関係をうまく築けるようになりました。

のびのび楽習塾には生徒の他、日本語の学習のために参加している保護者もいます。私は、生徒の父親で母語を英語とする保護者に日本語の発声方法や、平仮名・片仮名・漢字の書き順、短文作りなどを教えています。彼は平仮名の他に片仮名や小学校1年生相当の漢字の読み書きの練習に励んでいます。彼が毎回練習を行い、うまく字を書けるようになったことは、私にとって嬉しいことでした。

私が初めて支援したとき、彼は平仮名しか書けませんでした。そのため彼は小学1年生の国語の教科書の物語文を読んでも、「漢字が読めない、教えて」と母国語で質問しました。その後私は彼に読めない漢字を教えたのですが、彼は全く漢字に興味を持ちませんでした。また彼は私の一方的な学習の仕方に不満を抱き、ついに「こんなの、つまらない」と母国語で長々と言い、しばらくして彼は黙り込みました。私は学習支援の仕方を変えていかないと、彼との信頼関係を築けなくなると不安が募りました。そこで私は日本語の練習に必要な教材を集め、彼と向き合い始めました。

彼との信頼関係が徐々に築けるようになったのは、今年の夏休み期間中、彼の学習を支援していたときです。私は彼に、カルタやカードを

使って平仮名・片仮名について教えました。私がカルタやカードを使って教えると、彼は笑顔で「うんうん」とうなずきました。彼は、平仮名・片仮名について少しずつ興味を持つようになりました。9月に入ると、初めて片仮名や漢字を書き始めました。片仮名や漢字を書き始めた彼の姿を見ると、努力した結果、彼は字を丁寧に書けるようになりました。

現在私は、彼が日常生活で母国語と日本語と両立して話せるよう、カードや小学校で使用する教科書を使って、彼の学習支援を行っています。しかし彼は前回覚えた単語を忘れてしまい、すぐには単語を平仮名や片仮名、漢字で書くことができません。私は彼が日本語に少しでも興味を持ち続けるように日本語の教材研究に取り組み、彼とのコミュニケーションを維持していきたいです。



発行日:2015年2月14日

発行場所:神大ユースサポートプロジェクト(JYSP)

TEL:045-481-5661(内線4352)

FAX:045-413-4154

E-mail:jysp-jimukyoku@kanagawa-u.ac.jp

URL:http://www.kanagawa-u.ac.jp/teacher_training_course/jysp/



発行 神大ユース・サポート・プロジェクト(JYSP)

TEL: 045-481-5661(内線4352)

FAX: 045-413-4154

E-mail: jysp-jimukyoku@kanagawa-u.ac.jp

URL: http://www.kanagawa-u.ac.jp/teacher_training_course/jysp/